

## 今週の為替相場見通し(2018年4月16日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		106.62 ~ 107.78	107.34	106.00 ~ 109.00
ユーロ	(ドル)		1.2261 ~ 1.2396	1.2330	1.2100 ~ 1.2400
(1ユーロ=)	(円)		131.11 ~ 132.90	132.38	131.00 ~ 134.00
英ポンド	(ドル)		1.4080 ~ 1.4296	1.4236	1.4150 ~ 1.4400
(1英ポンド=)	(円)	*	150.48 ~ 153.86	152.83	152.50 ~ 155.50
豪ドル	(ドル)		0.7652 ~ 0.7810	0.7768	0.7650 ~ 0.7850
(1豪ドル=)	(円)	*	81.94 ~ 84.08	83.36	82.50 ~ 84.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、\*印の項目はブルームバーグ。

### 1. 米ドル

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1)今週の予想レンジ: 106.00 ~ 109.00 円

(2)ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

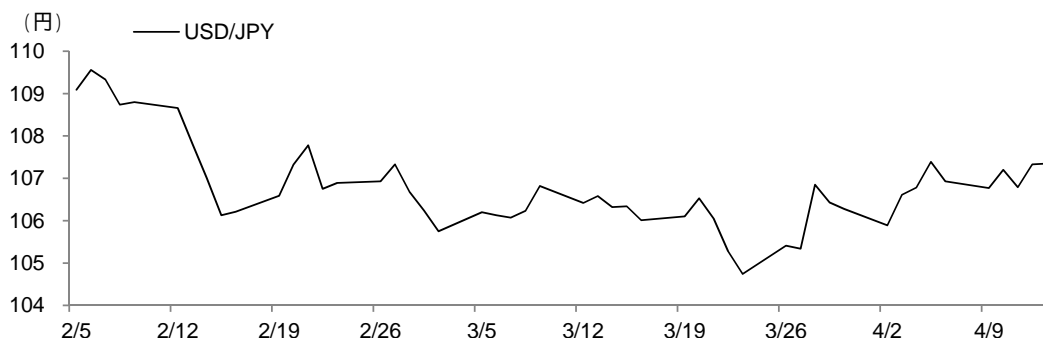
先週のドル/円相場は底堅く推移した。週初9日に106円台後半でスタートしたドル/円は107.20円までじり高となるも、トランプ米大統領の顧問弁護士コーエン氏のオフィスがFBIによる強制捜査を受けたとのヘッドラインに一時106.62円まで急落した。10日、アジアフォーラムでの習近平国家主席の演説では、自動車等の輸入関税引下げや外国企業への市場参入規制緩和等マーケットフレンドリーな内容に米中貿易摩擦懸念がやや和らぎ、ドル/円は107.24円まで急反発。しかし、米国がシリアへの共同軍事攻撃を検討していること等を背景にリスクセンチメントが悪化しドル/円は106円台後半に反落。その後、ユーロ/ドルの急落をきっかけにドル買いが強まると、ドル/円は107.40円まで再反発。トランプ大統領が習近平国家主席の演説に対する謝辞をツイートしたこともドル/円をサポートした。11日にトランプ大統領が「ロシアはシリアへのミサイル攻撃に備えよ」とツイートすると、地政学リスクが再び高まり106.70円台に下落。その後も、シリア情勢への懸念から円買い需要は強く、ドル/円は106.65円までじり安となった。FOMC議事録は、従来よりも早いペースでの利上げが適切との見解と、貿易摩擦による米景気の下振れリスクへの言及から、ドル/円は方向感が定まらなかった。12日は、トランプ大統領のツイートがトーンダウンしたことを受けてリスクオフムードがやや後退する中、ドル/円はクロス円主導で107.43円まで上昇した。13日には、ドル/円は上値目処として意識された107.50円を上抜けると、海外時間には週高値107.78円まで上値を伸ばした。週末を控え、米株が上げ幅を縮小し、米債が一部買い戻されるとドル/円も107円台前半まで売り戻されて越週した。

今週のドル/円相場は通商問題や地政学リスクを巡り神経質な展開を予想。今週は16日(月)に米3月小売売上高、NY連銀製造業景気指数、18日(水)にベージュブック、19日(木)にフィラデルフィア連銀景況感指数等が発表される他、複数のFEDメンバーの講演が予定されている。また、17~18日に日米首脳会談が開かれる。米経済指標や米企業決算から米経済のファンダメンタルを確認することもさることながら、短期的には地政学リスクや米国を中心とした貿易摩擦問題の動向に一喜一憂する展開が見込まれる。週末に米国主導でシリア攻撃が開始されており、ロシアとの緊張が更に高まる事態になれば一層リスク選好度は低下し円買い材料となる。また、日米首脳会談では本邦の対米貿易削減要求が出ることも想定され、日米貿易摩擦を背景とした株価下落が、ドル/円の下値警戒感につながりそうだ。仮にシリア情勢の早期沈静化や米国のTPP復帰期待等があれば、ドル/円は108円抜けを目指して反発するだろう。

(3)先週までの相場の推移

先週(4/9~4/13)の値動き:

安値 106.62 円 高値 107.78 円 終値 107.34 円



(資料)ブルームバーグ

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。  
しています。

レポート全ページをご希望の方は、  
お取引いただいているみずほ銀行の  
お取扱店、またはお取引担当部まで  
お問い合わせください。

以上